

寺報

善 巧

発行

〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
☎宇奈月0765(65)0055

寺
ごよみ

十月

一日
お講・板屋

お寺座 夜七時半
女義太夫竹本駒之助
「壺坂靈驗記」他
会費 二千元

一六日
お講・三日市

報恩講

一九日 午後一時 逮夜
午後七時半 初夜

二〇日 午前七時 晨朝
午前十時 日中
午後一時 満座

布教 川崎順正師

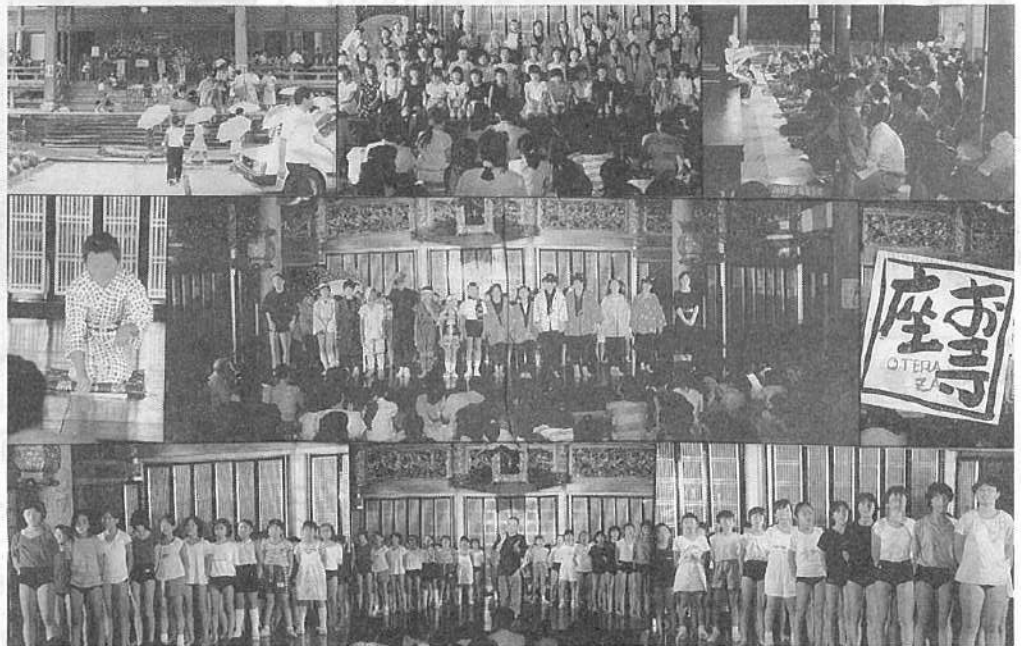
二五日 柳沢田家経田報恩講

二六日 東狐・青木報恩講

三〇日 飯野・新浜報恩講

三二日 板屋報恩講

お寺は文化の発信地 ハートフルな公民館



「お寺座：OTERAZA」こけら落し 8月27日

十月十九・二十日
報 恩 講

布教 川崎順正師

十一月四日・五日
空 華 忌

講話 高田慈昭師

十月十九、二十日は、善巧寺の報恩講に当ります。五百年以前から毎年勤まつて来た大切な行事です。地図を拉げて見ますと、黒部川を中心にして現在の行政区画で云えば、魚津市・黒部市・宇奈月町・入善町・朝日町と、二市三町に亘って善巧寺の門徒が各地においでになります。その門徒衆が、丁度農作業が終った此の時期に、新米を袋に入れて東から西から、海辺から山裾から、報恩講詣りにお出でになります。昔は、交通機関も今とは異って或いは黒部川を渡渉し、或いは、山越え道を辿って一時間から二時間もかかって草鞋ばきでおいでになったのです。それが、今日まで延々と絶えることなく続いて、今年の報恩講も間近になりました。黒部扇状地帯と云われる此の地帯は、そのほとんどが水田地帯で、従って善巧寺の門徒衆は米作農民、お百姓さんが中心をなして居ります。農業労働と一口に云いますが、天候に左右されることの多い農作業は、苦の集積と云ってもいいでしょう。凡てが機械化し近代化した今日でも決して安楽とは云えぬのですから、二百年、三百年の昔の苦勞は想像以上のものだった筈です。そのお百姓

報恩講を迎えて

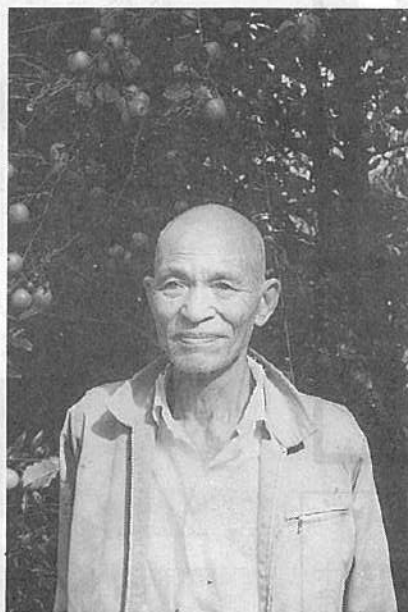
「如来大悲の恩徳は身を粉にしても報ずべし」私達の祖先は、みんなご恩と云うことを一番大切な徳目と考えて育つて参りました。恩知らずと云われることを一番不名誉なことと教えられて参りました。中でも、如来大悲の恩徳、ほとけさまの有難いご恩だけは忘れてはならぬご恩です。親鸞聖人が恩徳讃の中で、身を粉にしてもと仰言つておいでになるのは、唯の修飾の言葉ではありません。試みに、私の此の右腕を仔細に眺めて見ると、骨があり、肉があり、血管があり、そして、大部分が水分から成立っていることが分ります。それが、粉になって働いても尚足りぬほどの「ご恩」身を粉にしてもお返ししなくてはならぬご恩返しの日が、報恩講詣りです。善巧寺の阿弥陀さまの前で合掌念仏する御門徒の尊い姿を、私も四十年眺めさせて頂いて来しました。今年も、お陰で、無事に、報恩講を勤めさせて頂きましよう。

住職 雪山俊之

お寺は眠っていてはいけない

お寺

花



鬼原勝次さん

眠らせておく門徒もいけない

いつもはこのページには先生方の講録を掲載しているのですが、今回はどうしてもこの方にご登場願おうと思います。皆さんよくご存知の善巧寺の門徒総代の鬼原勝次さん(七四)です。

鬼原さんは、入善町浦山新の農家で、田んぼは若い者に、そして自分は牛を飼ひ、果樹を栽培しておられます。たいへんな勉強家で、読書

あいさつをされているようですが、私にとっては、心から「ごえはん、お帰りのさい。お待ち申しております」という気持ちです。うれしいことです。これから私たちは、住職とひざつき合せて、語り合うことができます。皆さん、ありがとうございます。

インド仏跡参拝の折

私はどうしてインドまで行くのかと問われましたら、おしゃかさまのみあとをしたっておま

量もおどろくほど。そしてなにより、鬼原さんの話される言葉がすごい。どんな折にでも、急に「ごあいさつをたのんだりしても一堂がグツと息をのむようなお話をしてくださいます。今回は、そうした鬼原さんの折々の話を、語録のかたちで皆さんに聞いていただきますよう」。

住職が富山女子短大を退官

した折の記念パーティーで

皆さんは、雪山先生が学校を去られるというので、お別れの

夏の総代会で

お寺は眠っていてはだめでありま。また、眠らせている門

徒も悪い。やはりお寺は活気あふれる場でなくてはならないと思います。私の身内に新宗教の信者がいます。その教えは間違ったものかもしれません。しかし、とにかく一生懸命、目を輝かせて活動しているのを見て、宗教とはこういうものかもしれないと思いました。みなさん、お寺を眠らせておこうと思えばいくらでも眠らせておけます。なにもしなければそれでいいのです。しかし、それではお寺は死んだも同然ではないですか。私たちのお寺は二年後に開基五

百年、前住職坊守五十回忌の大法要があります。

門徒の私たちが何もしなくても、おつとめだけではできなくて、よう。しかし、それでは参加した意味がない。私たちの寺だという意識もない。私たちの先祖が熱い心で建てたこのお寺を見殺しにするだけであります。

やはり、お寺はそれではない。門徒もそれではない。お寺と積極的に関わって、始めて、お寺というものが意識の中に残り、念仏の声も心にひびくようになるのではないだろうか。

お講の折に

お寺の経蔵にはお経が一杯つまっているんですが、私たちも読めるものなら読みたいですね。仏教書はなかなか本屋にも真宗のものが見当たらない。開かれた図書館があればねえ。

寺

十一月

一日 お講・愛本新

空華忌

四日 午後七時半 初夜
五日 午後七時 晨朝
午後十時 日中
午後一時 満座

講話 高田 慈昭師

六日 上野報恩講

一三日 出・報恩講

一四日 魚津報恩講

一五日 中新報恩講

一六日 お講・浦山新

一七日 中陣報恩講

一八日

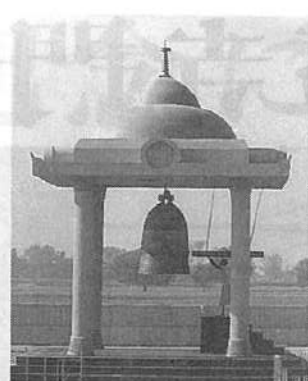
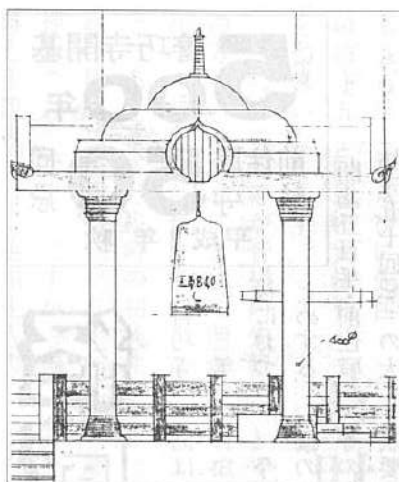
二〇日 析沢報恩講

二二日

二四日 浦山新報恩講

二五日

二七日 石田報恩講



鐘楼寄進について

じつは、私が弟がおりまして五十年前になくなりまして、もうすぐ五十回忌なんです。もし生きていたら、相談にのってやったり、い

ろんなことで世話をしやらないければならなかったことでしょう。

けれど、それでもできません。悲しいことです。

そんなことで、せめて、五十

お寺の鐘楼を寄進 印度の祇園精舎と同型

回忌の法要は、あばら屋も建てかえて、りっぱな「ごねんき」の大法事をしてやろうと考えておりました。しかし、考えてみれば、どんなにわが家をよくして、大きな法事をして、弟は生きては帰ってきません。結局生きた者同士が、その弟や親や先祖のおかげで生かされているんだなあ、というよろこびの確認をするしかありません。

そこで、私は考えました。ごねんきの法要はやめにして、少しお寺のことを考えよう。ち

ろ検討を重ねまして、思い出深いインドの、祇園精舎の鐘楼と同型のものを建てさせていただくことになりました。さしでがましいことのようにありませんが、総代の皆様にもご理解いただいて、来たる二年後の大法要には、鐘楼のつぎにかかえる、経蔵と物置の改修にご協力をいただければと思うことでございます。

お寺座こけら落して

すばらしいことであります。

ようどお寺も前住職坊守の五十回忌です。心は同じ仏恩報謝です。ごねんきをとめるかわりに何か寺のために、いや、正直申せばわが名利のためにといましようか、お寺でまずこれから法要までに考えなくてはならない、鐘楼の改築を、私の手でさせていたかどうかと思つたのです。先日来、県内の鐘楼の視察もします、若院や住職といろい

お寺が劇場になりました。仏さまの見てござる前で、生き生きとした雪ん子のみなさん六十人がハツラツとした劇を見せてくれました。

お寺は、みなさん、楽しいところですよ。いつでも、お越しください。お待ちしています。そして、この本堂のタタミがすり切れるほど使つて下さい。私たちは、毎年でもタタミの張りかえをいたしますから。

総代会

八月十六日、夏の定例総代会が開かれました。仏参と住職の「前向きのご審議を」とのあいさつのもと「開基五百年・前住職坊守五十回忌法要」などについて話し合われました。

まず、上段に掲載の鬼原勝次さんの鐘楼寄進についての寺からの説明があり、鬼原さんからの意向表明と合わせて、総代会はこれを心から歓迎し、鬼原さんに謝意を示すと共に、様式については、印度の祇園精舎と同型で鉄筋コンクリートの鐘楼に



8月16日の定例総代会

することを決めました。つぎに大法要についての協議に入りましたが、寺側の説明では一昨年来、法要準備費として寺費とは別に平均千円程度ののお金を集めており、これを二年後までつづけることによって、法要の当日の費用は確保されますが、記念事業については前回の総代会でも結論が出ていませんでした。

しかし今回は鐘楼の問題が解決したため、一歩前進して、門信徒総ぐるみの記念事業としては、経蔵・物置の改築を進めたいとの意向が表明されました。これに対して、慎重に審議された結果、まず、同事業の全容を明らかにして、門徒全員の理解を深めることが先決ということになり、総代会で決定というのではなく、門徒の総意でこの事業を進めるべきだということになりました。詳細については次のページに詳しく書きましたので、熟読いただき、皆さまのご意見をうかがいたいと思いま

す。

巧寺門徒会館を

善巧寺開基
500年
前住職 **50** 回忌
坊守 平成 3 年 秋

経蔵、物置を改築 総額六千万円で

善巧寺 回はじめて、門信徒の皆さんに
が、二年 お知らせすることになりました。
後におつ 今回の大法要記念事業は、鐘
とめする 楼の改修、経蔵、物置の改修、
寺の山の買もどしなど、先の三
法要の記念事業がよ 業について、数年前から検討さ
うやくまとまり、今 れていたもので、まず第一に鐘

楼の改修をいうことで話が進
められていました。
そこへ、鬼原勝次さんの思わ
ぬご寄進というありがたなお話
がありまして、とにかく第一の
関門をクリアすることができま
した。鬼原さんは、おそらく、
だれかがことを起こさなくては

画」とはどんなものかと申しま
すと、現在境内西側にあります
経蔵は土蔵づくりで痛みがひど
く、修復をしなければならな
い時期にきています。しかし、こ
れをただ修復するだけでは、経
蔵本来のもつ機能を十分に発揮
することはできません。経蔵と

のが建っています。さらに、最
近は寺の備品が増えていますし
事務所も手せまになってきてい
ます。
こうした状況から、まず経蔵
と物置をとりこわして、それに
変わる図書室と倉庫を完備した
建て物を建設しようとの考えが
出てきたわけです。

そして、さらに、全国
のお寺を見ても、

開かれた図書館・門徒の広間 事務所・物置・車庫も

戦後、多く
のお寺で、
このような

改築をされ、そのほとんどが「門
徒会館」と名付けられ、門信徒
の方々の集いの場、いこいの場
として利用されています。

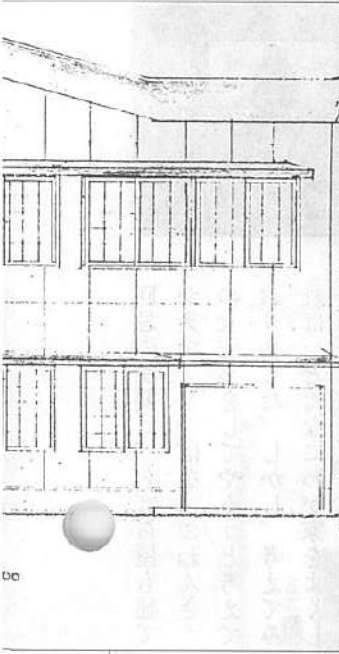
善巧寺でも、今回の改築をそ
のような見地から、新しく考え
直して、図書館と物置と、さら
に事務所と、門徒の方々が集え
る広間を加えて、二十一世紀
にはばたくお寺の門徒会館を建
設しようという計画を立てまし
た。

この計画は総額はおよそ六千
万円です。ということとは、門徒
の方々一戸当り、十万円位とい
のご懇志を仰がなくては完成す

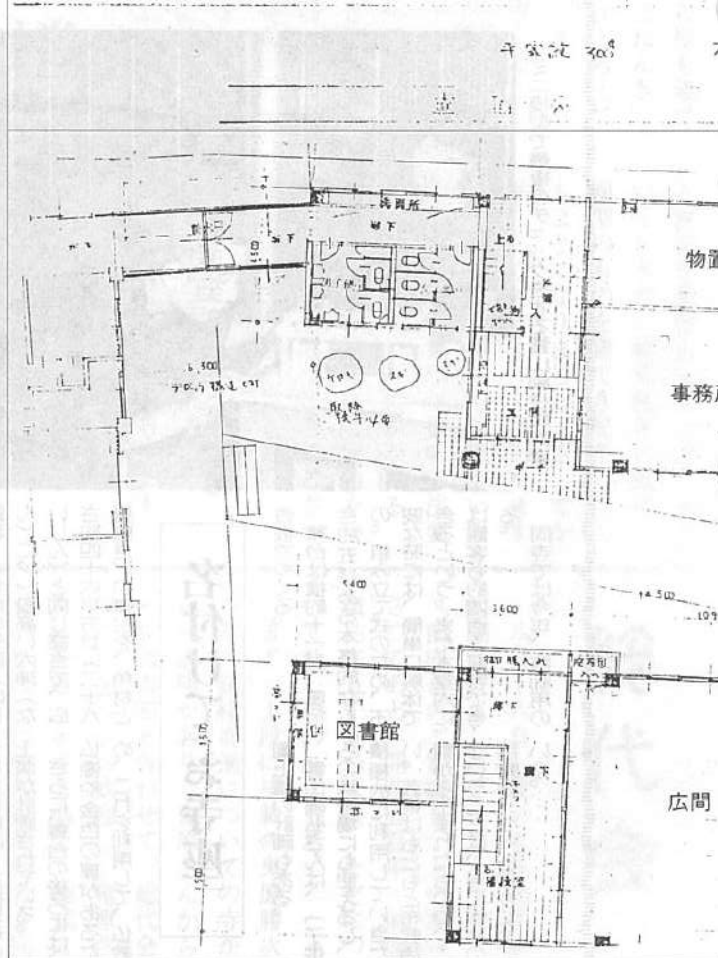
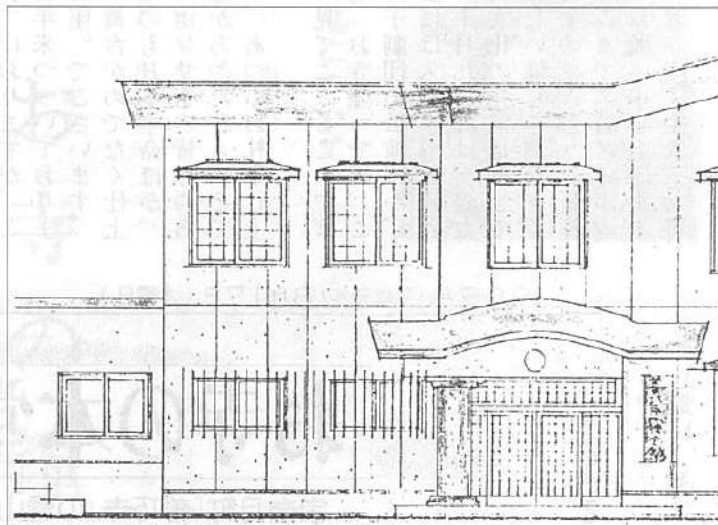
鐘楼の修
復といど
で、今度

の大法要の事業が終わってしま
うのではないかと心配で、大
きな犠牲をはらって、今回の大
寄進を思い立たれたようで、夏
の総代会でも「第一の問題はこ
れで解決したのですから、どう
ぞ、第二、第三の計画へと進め
ていただきたい」との意向。こ
れを受けて、お寺ではこれまで
あたためつづけていた「経蔵と
物置の改築」の計画について、
総代会で提案し、今回、門信徒
の皆さんにはじめてその全容を
明らかにさせていただくことにな
ったわけです。

さて、「経蔵と物置の改築計



法要記念に



門徒の皆様へ

慈光の下いかがお過ごしでしょうか。皆様の寺、善巧寺では来る平成三年の秋に、開基五百年、ならびに先住職坊守五十回忌の大法要を勤修いたします。

募財は一戸当り十万円、五カ年計画で

善巧寺のお寺が皆様の先祖の方々の熱い心によって開かれたのが今から五百年前のこととあります。当時の初代住職は釋慶祐法師という方で、禪僧であつたようですが、当時七十四歳だった蓮如上人の

ご教化を受けられ浄土真宗に転宗されたと善巧

させていただきますと思っております。

ちやうど、門信徒の皆様のお宅で行われる「ごねんきさま」の心であります。

寺の過去帖にあります。その慶祐師がなくなられたのが、ちやうど今から五百年前のこと前住職の雪山俊夫の五十回忌

法事の記念事業も、経蔵と物置を改築して、新しく図書室と門徒の皆さまのいこいの

とであります。

を迎えます。

私たちは遠く五百年の歳月をふり返りながら、今日まで受け継がれてきたお寺、それを護持されてきた先祖代々の

場と、事務所物置等を合わせまして「善巧寺門徒会館」を建設する計画でございます。

方々に思いをいたし、よろこびのうちにこの大法要を迎え

総額は六千万。門徒一戸当り十万円という高額の募財をお願いしなければなりません。誠に申しわけのないことであ

るに至りません。お金のこととなりまして、やれやれとイップクシそうな話になりますが、寺としては是非とも、この計画までは大法要の事業として成功させたいと思っております。どうぞ意のある所をお汲みとりいただいてご協力下さいますようお願いいたします。

なお、この件につきまして質問等がございましたら、いつでもご相談させていただきます。地区別に集会を持っていただければ寺から説明にもあがりますのでよろしく願います。

りますが、一度にということでもなくともかまいません。三年五年の分割でもさしつかえありません。どうぞ意のあるところをお汲みとりいただきまして、よろしくご協力のほどを心からお願い申し上げます。

御門徒各位

住職 雪山俊之

総代 鬼原勝次

平成元年十月一日



口 上

東西トーザイ！ここもと、皆様に披露いたしますのは、「お寺座」のこけら落としでございます。本堂内に仕つらえましたる特設舞台は、目新しいものではございません。出内陣と申します寺に昔からございました様式。名前もOTERAZAなどとしておりましたが、これまた七百年來つづいております。寺のお座でございます。さてこの舞台がめでたく仕上がりましたのも日本生命ほか、数多くのスポンサーの皆様のおかげで、あたたかい志があったからこそでございます。あつくお礼申し上げます。

仏さまの見てござるこのすばらしい劇場「お寺座」では、これから雪ん子劇団の公演ほか、九月三十日には入船亭扇橋師匠の独演会、十月九日には女義太夫と新しい文化の発信地としていろいろ楽しい催しを開かせていただきますので、どうぞ皆様すみからすみまでズズズーッとよろしくお願い申し上げます。お寺座 主人、女将

1989年(平成元年)8月17日(木曜日)

言

言

業

業

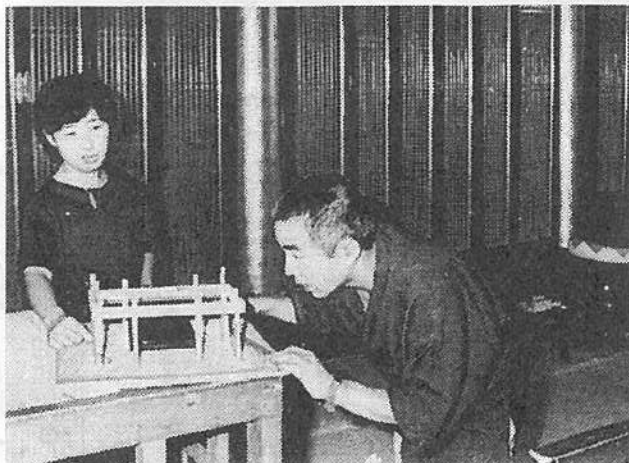
お寺の本堂を劇場に

宇奈月町「善巧寺」の雪山さん 27日こけら落とし

児童劇や落語会

四百人 舞台は「出内陣」の様式

宇奈月町浦山四九七の善巧(ぜんぎょう)寺(雪山俊之住職)は、本堂に舞台を設け、ユニークな劇場として二十七日にこけら落としをする。「お寺座(おてらざ)」と名付け、同寺副住職の雪山隆弘(たけひろ)さんが主宰する児童劇団「雪ん子劇団」のホームグラウンドになるほか、落語会などを開き、地域文化の拠点にしていきたいという。



三三三模範で最後のチェックをする雪山副住職夫妻

照明器具を寄贈されたのをきっかけに、地元企業や工務店の協力で、お寺劇場が実現した。

二十七日には、「雪ん子劇団」の夏の定期公演が行われるほか、九月三十日には、入船亭扇橋さんを招いての「野あかり落語会」や、踏襲。本堂内の外陣(げじ)に、一段高い内陣(ないじん)と同一高さで、広さ約四十六平方メートル(二十八畳敷き)の舞台を、角材と

舞台は、古くから大きな寺で使われた出内陣(でないじん)の様式をそのままの「野あかり落語会」や、踏襲。本堂内の外陣(げじ)に、一段高い内陣(ないじん)と同一高さで、広さ約四十六平方メートル(二十八畳敷き)の舞台を、角材と

名付けて「お寺座」

合板でつく。

劇上演の計画もある。

舞台は横約十一メートル、奥行約五メートルある本格的なもの。組み立て式のため、不要な時には、簡単に解体できるという。また本堂内には観客も約四百人収容できる。同寺では今年、演劇用の活動の「二」つと張り切っている。

赤光白光

とかで、これから美術館や文化ホールは大いそがしの時期に入るわけだが、この芸術とはそもそも何ぞや、と辞引きをみると「仏教僧の示した奇蹟のこと」とあった。つまり、インドや中国で、お坊さんが神通力を使つて、奇瑞や奇蹟を見せたのが、芸術の始まりということである。これは、なんとも素晴らしい▼お釈迦さまは、こうした「術」はいましめられた。歌舞音曲もつづしむようにといわれた。しかし、人の暮らしはそうした文化の中にある。

仏滅後、仏法を広めるために、インドの精舎では、お経に節をつけて歌うようになり、仏参には音楽が用いられ、演劇も上演された。中国唐代には、寺は民衆文化の中心地となり、日本では大仏開眼法要にインドの仮面劇が上演され、空也の念仏踊りが歌舞伎となり能楽の詞章も曲調も梵唄から発展した▼そう、お寺は文化の発信地だったのだ。もう一度、その原点に立ちもどらうと、この秋、富山のお寺の本堂に、出内陣形式の舞台を設けて「お寺

27日にこけら落とし

子供 仕上げ練習に汗流す



富山県立富山高等学校

地域文化の発信地に

(中日新聞)



宇奈月町神宮の善巧寺本堂にコケラ落としの練習に汗流す子供たち。同寺の別荘に練習場を設け、練習の場として活用している。

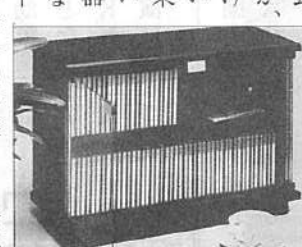
富山県立富山高等学校の児童が、善巧寺本堂の別荘に練習場を設け、練習の場として活用している。児童たちは、練習の場として活用している。児童たちは、練習の場として活用している。

九月五日 火曜 終日くもり
九月は、例年暇な月である。法務は無いし、寺から外に出ることもない。その上に天候も悪く、庭のカンナも折角開いた花が雨風に吹き倒されてあわれな姿になっている。

若院夫妻は富山に出かけたし、孫の中学生は早くから学校へ自転車登校。近く学校の運動会があるので毎日忙しそうだ。

朝食後、自分の部屋で机に向う。本を取り出して読み始めるが、十頁と読めぬ。老化現象は、足ばかりでなく、目にも及んだのか。今日は一日レコードでも聞くことにする。クラシックのCDが此処一・二年、時々買い

求めたのが数えて見ると八十幾枚になっている。ベートーベイン・ピアノソナタ第一番、グニエル・パレンボイムから始める。全くの素人レコード鑑賞で、取り立てて趣味と云える段階ではないが、ヴォリユウムを上げてピアノの音を聞いているといつか音楽の世界に没入している。自分では、楽器をいじったことはなく、子供の時にハーモニカを吹いたのが唯一の音楽体験なのだが、近頃はレコードもCDと云う素晴らしいものが出来て、昔のように一々針を代



住職日記

えないでも一時間十分で、ベートーベンの合唱が聞ける。第一音質が昔とまるで違って、所謂臨場感があつて大げさに云へば世界一流の奏者を自分の部屋に連れて来たようだ。

ピアノと云えば、色んな思い出が浮んでくる。私たちは、男三人女三人の兄弟姉妹で、四番目に生れた女の子に母がピアノを買い与えたのが、まだ大正年代だったと思う。それから年代が変り、妻が娘にピアノを与えたのが昭和に入ってからであり、その娘が結婚して

富山・本願寺派善巧寺

お寺座オープン

富山県立富山高等学校の児童が、善巧寺本堂の別荘に練習場を設け、練習の場として活用している。児童たちは、練習の場として活用している。児童たちは、練習の場として活用している。

本堂に特設劇場 文化の発信地に

富山県立富山高等学校の児童が、善巧寺本堂の別荘に練習場を設け、練習の場として活用している。児童たちは、練習の場として活用している。児童たちは、練習の場として活用している。

- | | | |
|----|---|-----------|
| 一 | 日 | お講・下立愛本 |
| 二 | 日 | 中ノ口・赤田報恩講 |
| 三 | 日 | 愛本新報恩講 |
| 四 | 日 | 下村報恩講 |
| 五 | 日 | 下立・愛本報恩講 |
| 六 | 日 | 内山報恩講 |
| 七 | 日 | お講・浦山 |
| 八 | 日 | 音沢報恩講 |
| 九 | 日 | お寺の学校もちつき |
| 一〇 | 日 | 除夜の鐘 |

児童劇団六十人のミュージカルが上演された。内陣余間の巻障子をあけて、子供たちがドツと飛び出してきたとき場内からどよめきと拍手がわき起こった。『たしかにお寺は文化の拠点としてもすばらしい空間だ』。演劇家や行政の文化担当者も感心し、マスコミも熱い視線を寄せた。全国一万人の寺のわが宗門で、大いにころした文化の風を吹かせたものだと思った。お寺座Iについて、お寺座II、IIIとネットワークを広げたい。(本願寺新報)

十二月

雪ん子オルビス公演

8月25・26日



ことばの教室雪ん子劇団は、八月二十七日の「お寺座」公演に先立って八月二十五、二十六日の二日間、富山駅前マリエに

ある最新円型劇場、国際文化センター「オルビス」で公演しました。この公演は劇団創立十周年を記念して計画されたものですがそれに富山県の私立幼稚園協会が加わって共催の形となり、さらに北日本新聞社、KNBが後援して下さって、公演は両日で三公演。

富山各地から幼稚園の親子、それに、新聞やテレビ、ラジオで知ったという方もお越しになり満員の盛況でした。出し物は、手話ミュージカル「うちのとうちゃんえらいんだ」にはじまり、観客と共に楽しむ「みんな雪ん子」つづいて新作の「子供落語」そしてさいごはミュージカル「桃次郎の冒険」。内容も流れも演技もじつにうまくまとまって、すば

若院の報恩講回り年内見送り

昨年度の報恩講まわりを休ませていただきました若院は、その後、体調をとりもどし、現在お寺座や雪ん子劇団、各地での講演と、幅広く活躍させていた

だいておりますが、国立がんセンターの主治医、北條慶一外科部長によりますと「まだまだ闘病の期間、無理はしないように」とのことです、どうやら今年いっぱい報恩講まわりは休ませて

らしい公演となりました。雪ん子はこの公演のあと、お寺座で。そして九月三日には砺

「暮しの手帖」月号をどうぞ

九月末に発売された雑誌「暮しの手帖」を皆さん是非お買い求め下さい。この雑誌は若院夫婦共に大好きな雑誌で、若院は時々この雑誌にコラムを執筆したりしていますが、今回は違うんです。

「お寺の雪ん子の活躍や、雪山さん夫婦の生き方がとても好き」だというわけで、わざわざ東京から取材に来て下さってなんと八ページの大グラビア特集を組んで下さいます。



「暮しの手帖」月号の表紙

いわく「若院さんと若奥さんと雪ん子と」ある日本人の暮らしと、本格的なヒューマンドキュメント。写真が十九枚、文章は尾形道夫さんの力作で一七字詰め五〇〇行の大作。若院さんと若奥さんのなれそめからとにかく根こそぎ書いていただいたみたいです。

というわけで、とにかく暮しの手帖の皆さんにお礼をいわなくちゃいけないのですが、それよりなにより、一人でも多くの皆さんがこの暮しの手帖の愛読者になってほしいのです。

ぜひ、本屋で、今回だけでなく、この「暮しの手帖」を買って下さい。バカな広告が一切ない、良心的なというより、ひたむきな編集の「暮しの手帖」を心からおすすめいたします。



善巧寺の常例行事

お寺の学校	お寺の講
毎月 第四土曜日	毎月 一日・十六日
毎週 月曜四時	
毎月 第二土曜日	
毎月 第一火曜日	
第一・第三土曜日	

合 掌

というわけで、とにかくこの夏の善巧寺はまたまたいろんなところから注目を浴びまして、マスコミの取材ではお寺はじまって以来のにぎわいでした。

七月には暮しの手帖の取材。八月に入ってKNBラジオ。タウン情報とやまのインタビュー。十三日には、篠田正浩監督の映画「少年時代」に雪ん子が出演。つづいて北日本新聞、富山新聞、朝日新聞、読売新聞、中日新聞、仏教タイムズ、地方活性化センター、広報うなづき、NHK、ラジオ山梨等々の取材。さらに二十六日からは浜美枝さんのグラビア取材と驚くほどの取材ラッシュ。

うれしいですね。お寺が繁盛で、おうわさほとんどん広がって、いまや日本の浦山善巧寺になりました。こういうのはすなおによろこんだ方がいいですね。パンザーイ!

